

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 後藤隆徳

年月日	平日＝２００９年１２月１０日（木・晴） 休日＝２００９年１２月２３日（水・晴）
回数	２００８期・第１８回平日巡礼 ２００９期・第７回平日巡礼＝２１名 ２００９期・第７回休日巡礼＝２０名
巡礼寺・順	●二十七番札所 東林寺（とうりんじ） * 本尊・延命地藏菩薩 * 山号・稻荷山 * 宗派・曹洞宗・（長源寺派） * 草創・草創 1145-50(久安年中) * 開創当時は真言宗でしたが、1538(天文七年)十一番札所である、長源寺三世、圓芝春徳によって曹洞宗になる。 * 1100年代の昔、工藤祐経のうらみを受け不慮の死をとげた、河津三郎祐泰（曾我兄弟の父）の菩提をとむらって父伊東祐親が建てた。 * 日本三大仇討ちの一つ、曾我兄弟の首塚があります * 鐘楼堂の上の高台には曾我兄弟の首塚と父祐泰の墓がある。 * 境内に相撲四十八手の一つ「河津掛け」をあみだした祐泰を顕彰した碑が建てられています。
距離	約１５Km
タイム	下土狩５：５０—亀石峠—宇佐美—長谷寺—宇佐美—伊東—東林寺 ９：００～ 伊東・吉田地先 １２：００
トイレ	宇佐美駅、東林寺、浜辺の厠、伊東マリンタウン
温泉	１０日＝宇佐美・民宿「のぞき」 ５００—＋５００— ２３日＝ “ ５００—＋１０００—
寺経費	なし

参考資料 「伊豆霊場振興会」HP

2009年最後の巡礼。今回は伊東市が中心なので、大仁から亀石峠を越え伊東市に入る。今日の巡礼は半日で午後から昼食を兼ね、宇佐美の民宿「のざき」で忘年会を開催する。

宇佐美駅でトイレを済ませ、平日は先に民宿に寄ってA姉妹が差し入れしてくれた「マグロ」を置いて行く。休日は、ここで下田のSさん一行を拾い、11月最終地の長谷寺に向かう。

平日・休日ともよい天気の中に出発。ただ今日の巡礼は、ほぼ国道135号線沿いに行くので車には十分気をつけなければならない。特に長いトンネルが二か所あるので神経を使う。トンネル内は照明が少なく暗いうえ、大型車の風圧が強く、よろけたりすることがあるからだ。その上埃っぽいこと、はなはだしい。

道は道路工事があつたり、カーブが多くで先頭の私が巡礼旗をかざして、車の注意を引くように歩く。平日時はちょうど出勤時間で飛ばしてくる車が多かった。宇佐美に入って少しホッとす。浜の北端に「浜辺の厠」という立派な



怖いトンネル

宇佐美海岸に行く



トイレがあつた。ここから気持ちの良い浜を750mほど歩けるが、平日・休日ともあいにく潮が上がっていて、少ししか歩けなかった。

再び国道に戻り、前方に「ハトヤホテル」を仰ぎながら伊東市内に入っていく。



ハトヤホテル



今も使われている古典赤ポスト

奥の塔のところが
東海館



伊東市内は面白い「伊東観光番」・松川の大川橋から「東海館」・今も使われている昔の古いポストなどを見た。

変わった名称の、音無町の音無神社近くの音無交差点先を右に入ると、東林寺は近い。

山門には仁王が「阿」「吽」で佇立していた。ただ、ここの仁王は「邪鬼」と呼ばれる、一種の仏さまの上に乗っている珍しいものだった。本堂に上がってお勤め。一年最後のお勤めだった。ここのお寺は感じの良いお寺だった。お寺も千差万別。今年最後がよいお寺でよかった。

再び国道に出て12時まで巡礼。平日は何故か伊東高校グラウンドに出てそこを横断した。ちょうど女子高生がハンドボールの学習中で、私たちに手を振ってエールを送ってくれた。まだまだ地方の子供達は純朴なのです。

国道を吉田地先まで歩くと平日・休日とも12時だった。すぐバスの人となり宇佐美「のぎき」にとって返す。

すぐ入浴し平日はMさん、休日はK、Aさんの音頭で乾杯し、皆さん持ち寄りの海・山の幸をいただき忘年会が始まった。皆さんは今年の感想・反省・来年の抱負を語り一年を振り返った。

今年一年、ご苦労様でした。来年も安全に楽しく学びましょう。合掌。



休日班



手製コンニャク



豪華な料理が並んだ



マグロのお刺身



平日班



平日班



休日班